

新規陽性者の発生動向

(1) 大阪府の発生動向

- **新規陽性者数は第四波を上回る速度で減少しているが、依然、1日平均で367名程度発生し、第四波当初（70名程度）や第五波当初（100名程度）と比べ、極めて多い。分科会指標のステージⅣ（緊急事態措置適用）の基準約315人を上回っている状態。**
- 居住地別新規陽性者数は、**大阪市内外ともに分科会指標ステージⅣの基準を超過**。特に大阪市内居住者は依然極めて高水準。保健所管内別でも、一部を除き、各保健所管内でステージⅣの基準程度かそれ以上であり、**感染は府全域に依然広がっている**。
- 感染経路としては、**感染経路不明の割合が6割程度と高く、市中感染が多い**。
- **18歳以下の新規陽性者数は減少しているが、陽性者全体に占める割合は8月に比べやや増加し、小中高校におけるクラスター発生件数も、8月に比べ、増加**。
- 夜の街の関係者及び滞在者の数は、飲食店等への休業要請等により第四波と比較すると少ない（ただし、数については、感染急拡大期における積極的疫学調査の限界が影響している可能性あり）。
しかし、緊急事態措置からまん延防止等重点措置に移行した6月21日以降、夜の街滞在者等の新規陽性者数が増加したことから、今後の緊急事態措置解除の影響を注視。

(2) 感染・療養状況とワクチン接種状況

- **ワクチン2回接種率は、50代で56.6%、40代で40.3%、39歳以下で24.8%。**
- **ワクチン接種者における新規陽性者数は、未接種者における新規陽性者数と比べて少ない。**
ただし、**2回接種後14日以降の陽性者も確認されている**。
また、**ワクチン2回接種後14日以降の新規陽性者のうち、陽性判明時に無症状であった者は、ワクチン未接種者と比べて多い**。
ワクチンには、発症や重症化予防効果が期待されるが、一方で感染に気付かないまま周囲に感染を広げる可能性もあることから、**ワクチン接種後の感染予防対策の継続が必要**。
- 6月以降新規陽性者のうち、ワクチン2回接種後14日以降の陽性者2,091名のうち、**重症化した者は15名、死亡例13名確認（2名重複）**。
ワクチン接種歴別の重症・死亡の割合は、未接種者に比べ、2回接種後14日以降の陽性者の方が低い（ワクチンによる重症化予防効果が期待）。

感染状況と医療提供体制の状況について

医療提供体制の状況

- 一般医療と両立可能な重症病床使用率は約 5 割、軽症中等症病床使用率は約 4 割と、医療のひっ迫状況は改善しているものの、重症者数は153名（9/27時点）、軽症中等症病床入院者数は1,076名（同）と、第四波や第五波当初の数より極めて多い。
（第四波当初：重症54人、軽中380人 第五波当初：重症44人、軽中359人）
全体病床使用率、重症病床使用率ともに分科会指標のステージⅢ（まん延防止等重点措置適用）の基準を大きく超過し、入院率や療養者数はステージⅣ（緊急事態措置適用）の基準も下回っていない状況。
- ワクチン接種や病床確保・早期の重症化予防の取組などにより、第四波と比較し、第五波の医療提供体制等に関する状況は大きく改善。

今後の対応方針について

- 新規陽性者数は第四波を上回る速度で減少しているが、分科会指標のステージⅣ（緊急事態措置適用）の基準を上回っており、感染規模としては依然大きい。
 - 医療のひっ迫状況は改善しているが、重症者数、軽症中等症病床入院者数が極めて高い水準にあり、今、新規陽性者数が増加に転じれば、医療は再び急速にひっ迫する恐れがある。
- ⇒緊急事態措置解除後も、新規陽性者数をさらに減少させ、医療のひっ迫を最大限改善させるとともに、早期のリバウンドを避けるため、段階的な対応が必要。
- ⇒また、重症化予防、発症予防効果のあるワクチン接種を11月末までに概ね完了させるとともに、ブレークスルー感染の可能性も指摘されるなかで、ワクチン接種後も感染防止対策の継続が必要。
特に、飲食店等における酒類提供が可能となることにより、感染リスクを減らすため、利用者側においても、飲食の場面で会話する際のマスク着用の徹底など、感染防止対策の徹底が必要。
- ⇒大阪府では、第六波に向け、①初期治療体制の強化 ②圏域ごとのネットワーク体制の構築 ③ひっ迫時に備えた保健所連絡前の医療へのアクセス確保の3つの医療・療養体制の強化方針に基づき、体制の整備・充実を図る。

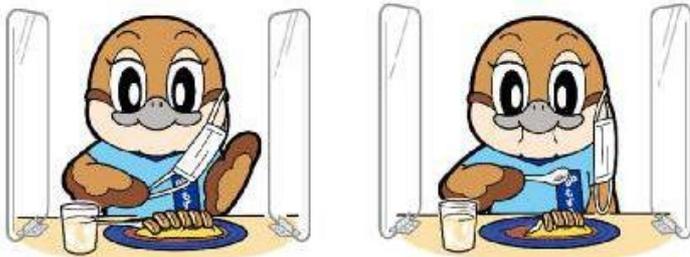
おしゃべりは、
マスクつけて。

自分のために。大切な人のために。

感染予防対策を
お願いします



飲食時のマスクの外し方のポイント



ゴムひもをもってマスクを外し、
マスクの表面に触ったときは
アルコール消毒をしましょう。

次善策として



左の方法が難しい時には、
両方のひもをもって
マスクをあごまで下げる
やり方もあります。